

2025 年 10 月 30 日

各 位

東京都中野区本町一丁目 32 番 2 号
会 社 名 アクセルマーク株式会社
代表者名 代表取締役社長 松川 裕史
(コード番号: 3624 東証グロース)
問 合 せ 先 経営管理部ゼネラルマネージャー
若海 正弥
(TEL 03-5354-3351)

暗号資産を活用した二軸型トレジャリー戦略の導入に関するお知らせ

当社は、2025 年 10 月 30 日付の取締役会において、財務戦略の多様化及び事業展開を目的として、暗号資産（ビットコイン及びイーサリアム）を活用したトレジャリー運用を開始することを決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当該戦略の概要

当社は、新たな財務戦略の一環として、暗号資産（ビットコイン及びイーサリアム）を活用したトレジャリー運用を開始することを決定いたしました。本施策は、財務戦略の多様化及び今後の事業活用を見据えたものであり、総額 5 億円規模の資産を対象とし、「ビットコイン」と「イーサリアム」の資産性と当社の事業戦略に即した二軸型トレジャリー戦略（以下、「本財務戦略」といいます。）による運用方針を採用いたします。

2. 本財務戦略の背景及び目的

(1) 背景

当社は、2018 年 3 月 14 日付「仮想通貨及びブロックチェーン技術を活用したオンラインエンターテインメント事業への参入について」で公表のとおり、ブロックチェーン関連事業に関して早期から取り組みを開始し、ブロックチェーンゲームの企画、開発、運用や、関連サービス普及のためのメディア運営、団体設立などを通じて、暗号資産を含めた当該領域に関する知見とノウハウを蓄積しております。現在、ブロックチェーンゲーム事業自体は収益性や将来性を勘案し撤退したものの、ブロックチェーン技術そのものについては依然として将来的に事業活用を見込むことができる可能性を有すると認識しており、財務戦略の活用、既存事業への応用などを視野に引き続き検討しておりました。

このような状況のなか、当社は、財務基盤の強化及び暗号資産を活用した財務的柔軟性の確保ならびに事業展開における活用を図り、もってグループ全体の企業価値向上を目的とする本財務戦略を実施することを決定いたしました。

（２）本財務戦略の目的

①財務基盤の強化

近年、地政学的リスクや金融政策の変動により経済、金融市場は不安定性を増しており、企業の財務戦略においてもインフレ耐性及び通貨の分散性が求められています。このような状況のなか、当社は、インフレリスク及び通貨価値の変動に対するヘッジ手段として、ビットコイン及びイーサリアム等の暗号資産を保有することが有効であると判断いたしました。

ビットコインは、供給量が固定されており、デジタル上の希少性を持つ資産として、金と同様の「価値の保存手段」としての性質を有していると考えております。イーサリアムは、スマートコントラクト基盤としての成長性に加え、ステーキングによる報酬獲得が可能であり、保有資産からのインカムゲインも期待できると考えております。

これらの暗号資産は、米国をはじめとする主要国の金融機関や上場企業においても受け入れが進んでおり、今後の市場拡大と制度整備により、企業財務における新たな選択肢としての地位を確立しつつあると認識しております。

当社は、今後の事業展開を見据えたなかで財務基盤を強化するための施策として、本財務戦略を決定いたしました。

②暗号資産を活用した財務的柔軟性の確保

今後の事業拡大を見据えた場合、国内のみならず海外企業との取引や業務提携等を通じた市場開拓を積極的に行うことが必要不可欠であると考えております。また、M&A や資本提携を通じた加速度的な事業展開も検討しております。

本財務戦略は、円建て収益モデルを補完する実務的なインフレ対策としての資産を保全することに加え、将来的に暗号資産を活用した M&A 対価や出資支払いの選択肢を確保することで、海外企業を含む多様な取引先との資本提携や戦略的なアライアンスを迅速かつ柔軟に実行できる体制を整備することを目的としております。これにより、為替変動リスクを適切にマネジメントしつつ、M&A や資本提携における柔軟かつ戦略的な対応が可能となると考えております。

③事業展開における活用

上述のとおり、当社は 2018 年より暗号資産の基盤技術であるブロックチェーン技術に着目し、当該技術領域に関する知見とノウハウを蓄積するとともに、現在も事業展開における活用を検討しております。なかでも、イーサリアムは、安全かつ透明な取引を可能とするスマートコントラクトと呼ばれる機能を備えたブロックチェーン基盤である点に特色があります。過去に当社が開発運営したブロックチェーンゲームにおいてもスマートコントラクト技術を利用しております。

現在のブロックチェーン技術を活用したトレンドとしては、不動産や美術品といった現実世界の資産を、ブロックチェーン上のデジタル資産（トークン）として表現する RWA（Real World Assets リアルワールドアセットの略称）の分野などが注目を集めていると認識しており、当該分野を含め、さまざまな事業活用の可能性を検討しております。

今後、当該事業展開を行うことを決定した場合には、適切なタイミングにて開示いたします。

（注） 1. スマートコントラクトとは、ブロックチェーン上に記述されたプログラムにより、あらかじめ定められた条件が満たされた際に、契約内容が自動的にかつ改ざん不能な形で実行される仕組みを指します。これにより、第三者の仲介を必要とせず、透明性と信頼性の高い取引が可能となります。

2. ステーキングとは、暗号資産を一定期間ブロックチェーンネットワーク上に預けることで、ネットワークの運営（取引の検証等）に参加し、その対価として報酬を受け取る仕組みです。

3. 本財務戦略における暗号資産について

（1）暗号資産購入の概要

取得する暗号資産：ビットコイン、イーサリアム

取得日：2025年11月～2028年12月（予定）

取得金額：上限金額5億円（予定）

取得方法：国内暗号資産交換業者を通じた市場購入

（2）運用方針の概要

当社は、ビットコイン、イーサリアムといった各暗号資産の特色を活かし、本財務戦略の目的達成を目指してまいります。保有する暗号資産については、総額5億円規模の資産を対象とし、現時点ではビットコイン、イーサリアムを予定しております。ステーブルコイン含む他の暗号資産については、資産性や事業活用の可能性等を踏まえながら検討してまいります。

なお、暗号資産の保有上限は5億円としており、この上限は当社の財務規模および価格変動リスク等を勘案し、財務の健全性を損なうことなく運用可能な水準と判断したものではありませんが、運転資金等への影響を注視しながら、段階的に運用規模を拡大していく方針です。

保有する暗号資産の内訳及び期間については、市場の動向や事業活用への可能性等を踏まえながら取締役会において、適宜、決定してまいります。主な方針として、ビットコインについては、「デジタルゴールド」の側面を活かした長期保有による価値保存資産として位置づけ、イーサリアムについてはステーキング及び事業資産としての位置づけとして運用する予定です。

（3）資産ごとの特色と運用について

① ビットコイン

ビットコインは、発行上限が定められた希少性と、中央管理者を持たない分散型ネットワークによって、長期的な価値保存資産としての地位を確立しているものと考えております。世界的に「デジタルゴールド」として認識されており、インフレ耐性や地政学的リスクへのヘッジ手段としても注目されております。当社では、このような特性を踏まえ、ビットコインについては長期保有を前提とした安定的な財務資産として位置づけ、価格変動リスクを抑えつつ企業価値の下支えを担うことを目的に保有いたします。

② イーサリアム

イーサリアムは、スマートコントラクト機能を備えたブロックチェーン基盤であり、金融・認証・資産管理など多様なユースケースに対応可能な汎用性の高い資産であるものと考えております。当社では、イーサリアムを財務資産として保有するだけでなく、ステーキングによる利回り運用を検討しております。さらに、イーサリアムは事業展開における活用も検討しており、技術的・経済的な中核資産としても認識しております。このようにイーサリアムは資産運用と事業活用の両面での展開が可能な戦略的資産として位置づけています。

4. リスク管理の方針について

これまでのブロックチェーン関連事業を運営してきた知見とノウハウを活かし、次の管理方針を定め
たうえで運用してまいります。

①管理部門及び職務の明確化

当社は、暗号資産を管理する部門及びその手順について整理のうえ、適宜、規程等を策定することで
責任と範囲を明確化いたします。購入や売却にあたっては、取締役会において金額や期間等の範囲内を
定めて決議を実施し、定期的に保有や管理体制につきモニタリングを実施いたします。

②財務諸表の評価報告

保有する暗号資産は、四半期ごとに時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上します。会計処理
は、現行の会計基準及び監査法人との協議に基づき、実施いたします。

③セキュリティ及び保管体制

暗号資産の保管にあたっては、コールドウォレット等を活用した多層的なセキュリティ対策を講じま
す。社内の情報セキュリティポリシーに基づき、アクセス権限管理、監査ログの記録、定期的なセキュ
リティレビューを実施します。

④規制対応及び開示方針

国内外の暗号資産に関する法令・規制の動向を注視し、必要に応じて運用方針の見直しを行ってまい
ります。暗号資産の保有状況及びリスク管理体制については、適時適切な開示を行い、株主・投資家の
皆様との対話を重視してまいります。また、新たに暗号資産を取得した場合においても、適時適切に開
示いたします。

⑤暗号資産の取引方法

現在のところ、主要な暗号資産交換所において法人口座を開設し、当該口座を通じて現物取引を予定
しております。

5. 今後の展望

保有する暗号資産につきましては、四半期ごとに時価評価を行い、その評価損益を損益計算書に計上
いたします。今後、連結業績に著しい影響が生じる場合には、速やかに開示いたします。

以上

＜本リリースに関するお問い合わせ先＞

アクセルマーク株式会社 経営管理部

[メール：ir@axelmark.co.jp](mailto:ir@axelmark.co.jp)